

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	基礎教育開発政策の有効性に関する実証分析				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小塚 英治
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小塚 英治

講演題目
基礎教育開発政策の有効性に関する実証分析
研究の目的、成果及び今後の展望
<研究の目的> 過去 25 年の間に世界の基礎教育の就学率は大幅に向上したが、世界の子ども・若者の半数以上は読み書き・計算に関する最低限のスキルを習得しておらず、開発途上国の多くが「学びの危機」に直面している。児童・生徒の学びに影響を与える要因として教員の質が重要であるが、開発途上国の多くの教員は十分な教授法や教科知識を身に付けていない。多くの開発途上国は多大な予算をかけて教員研修を実施しているが、それらの教員研修の有効性を科学的に検証した研究は少ない。本研究では、エチオピアで実施された理数科（算数および物理）の小学校教員研修プログラムのデータを活用し、教員研修が教員の教授法・知識、児童の成績に与えた影響を分析した上で、教員の質や児童の学びを改善するための政策はどうあるべきかを議論する。 <研究の成果> 教員研修を実施した結果、教員の教授法や教科知識は向上したが、児童のテストスコアは短期間では向上しなかったことが明らかになった。一方、教員研修に加え児童が補習授業においてワークブックを活用した結果、児童のテストスコアも向上した。また、研修に参加した教員はプログラムの実施後も各自の学校で努力を継続し、教授法や教科知識がさらに改善した。 教員研修の効果を教員の経験別に分析したところ、経験の少ない教員への効果の方が高いことが明らかになった。また、児童の成績別にワークブックの効果を分析したところ、介入前から成績の高かった児童への効果が強い一方、成績の低かった児童への効果は弱かった。 これらの結果から、エチオピアの教員研修は教員の教授法や知識の向上に貢献したものの、短期的に児童の成績を向上させるためにはワークブックなど補完的な介入が必要であることが示唆される。また、アフリカでは初等教育のカリキュラムの水準が児童の実際の学力よりも高いことが複数の研究で指摘されており、児童の学力に合ったカリキュラムや教材が必要であることが示唆される。 この研究の結果は、代表者が担当する授業で活用された。 <今後の展望> 教員の教授法・知識の向上が児童の成績の向上に直接的に結びつかなかった要因の分析や物理と算数の比較分析を進める。